



真宗大谷派 存明寺通信

NO.195

2020年(仏歴2551年)3月1日発行



新型コロナウイルスによる感染拡大を受けて、お寺の行事が中止・変更となっております。詳しくは本誌4ページ、または存明寺HPトップ画面の「**緊急のお知らせ**」をご覧ください。

新型コロナウイルスの感染拡大が大きなニュースとなっております。手洗いやうがいに一生懸命な私がいいます。うつりたくないという思い、それは誰もが持っている、ごく普通の思いです。

しかし、そのうつりたくないという思いが、時として間違いを犯してきたという歴史もあります。ハンセン病問題がそれです。菌を隔離するのではなく、感染者を生涯にわたって隔離してきたという大きな過ちの現実がありました。うしろにある言葉は、その中を生きた人の言葉です。このような時にあたって、ご一緒に味わってみたい言葉です。

感染した人は、人にうつさないように注意することはもちろんですが、私たちが本来避けるべきことは菌なのであって、その菌に感染した人ではないのでしょうか。しかし、その線引きが難しいのです。その結果、人をきらい、人を避けていくことをしてはいないでしょうか。

そこにいるのは人間。その人の苦しみから目をそらし、見ようとしないうろましい目を、私はしてはいないでしょうか。今気になっていることです。 **義**

本当に怖いのは、らい菌なんかじゃないんですよ。

むしろ怖いのは、ハンセン病患者の苦悩をまともに見つめてくれない、**壮健**たちの目ではないか。私はそう思っています。我々の苦しみから目をそらして、これを見ようとしないうろましい、**壮健**社会の目こそ怖いのです。

(あるハンセン病回復者の言葉)

※**壮健**とは、非感染者である私たちのことです。

ぞんみょうじ 存明寺HP、随時更新中 しんらん 親鸞と出会うお寺

<https://zonmyoji.jp>

アコヤ貝の涙

—真珠のかがやきの裏側—



きらりと光る真珠の、そのかがやきの裏側には、アコヤ貝の流す涙がある、という話を聞いたことがあります。

真珠は、アコヤ貝の中に異物が入るところから始まります。天然の場合は砂や泥が入ること、養殖の場合は貝の口をこじ開けて、貝殻を丸くけずった「核」の中に入れておくことです。このことはアコヤ貝にとっては大変な苦痛なのです。アコヤ貝は、養殖カゴに入れられて穏やかな海の中で育てられるのですが、やがてその半分が死んでしまうのだそうです。

異物を入れられたアコヤ貝はそれを吐き出すことができません。

アコヤ貝は涙を流します。やがてその涙の成分が異物である核を何層にも覆い、自分の体の一部にしようと思ひ込むのだそうです。2年という時を経て、アコヤ貝の中には美しいかがやきを持った真珠が出来上がるということでした。

私は、この話を聞いて、親鸞聖人の教えの世界に通じるものがあることを強く感じました。

アコヤ貝とは私たちのことです。人生には思いもよらない異物と出会うことがあります。それはたとえば、親しい人との別れ、思いがけない病い、人とのすれ違いや争い、思い通りにならない現実…。そのような時、人は苦しみや悲しみやつらさを感じるものです。それらはまるで無理やり私にねじこまれた異物であるかのようにです。それは、吐き出したくても吐き出すことができないこと。涙が流れることだつてあります。それが私たちの現実です。

そのような私たちに親鸞聖人が

「このような言葉が届けられていきます。」

かん丹の一粒は
鉄をばらして金と成す。

真理の一言は
悪業を転じて善業と成す。

（親鸞『教行信証』199ページ）
現代風にその言葉を訳してみた
と思います。

仏さまの必ず救うという誓願（Ⅱかん丹）は 人間が抱く苦しみや悲しみやつらさ（Ⅱ鉄）を、光りかがやく存在（Ⅱ金）に変えていく。

真実の言葉（仏さまの教え）は、都合の悪い出来事（悪業）を、多くの人々の道しるべ（善業）に変えていく。

（親鸞聖人の言葉）

都合の悪い出来事がなくなっていくのではありません。そうではなくて、都合の悪い出来事が、仏さまの教えと出会えば、多くの人々の道しるべのように光り輝くものへと変化していく、ということです。以上は、住職風の現代語訳でした。

真珠は、別名「アコヤ貝の涙」といわれているそうです。アコヤ貝には、涙を流し続けた長い歴史があったのでした。その痛みと共に生きて、流した涙の成分によって、美しいかがやきを持つ真珠が出来上がっていったのです。異物がなくなつたのではなく、異物がかがやきを持つ真珠に変化していったのでした。

人も、同じです。たとえ涙を流すような現実に出会つたとしても、仏さまの教え（仏さまの誓いや願い）に出会うことがあれば、つらい現実には、だれが見ても美しいと感じる真珠のようなかがやきを放つのでしよう。

あなたの苦しみや痛みはムダではない。そのような親鸞聖人の声が聞こえてくる気がします。



存明寺の一年



↑1月 年の初めの軌道修正・修正会



↑3月 春のお彼岸・無量寿廟法要



↑5月 永代経法要(今泉温資先生)



↑10月 おみがきと清掃のつどい



↑11月 報恩講法要(金石潤導先生)

存明寺の催し

■5月 永代経法要

存明寺の2大法要のひとつが、永代経法要。5月3日(日)に行われます。すべての亡き人を縁として、今を生きる私が教えに出会うための法要です。

当日は、存明寺名物の精進料理のお昼ごはんが振舞われます。多くの僧侶による法要があります。そして親鸞聖人の教えに出会うご法話が行われます。

ご講師は全国各地でご活躍中の先生をお招きします。今年は今をときめく名古屋の荒山淳先生(名古屋教区教区センター主幹)です。

■11月 報恩講法要

2大法要のもうひとつが報恩講法要です。浄土真宗の宗祖親鸞聖人を偲び、その人の教えに出会うために開かれる法要です。11月2日(月)・3日(火)です。

永代経同様、精進料理のお昼ごはん・多くの僧侶による法要・そして法話が行われます。今年のご講師は、長崎から田中顕昭先生にお越しいただきます。田中先生は住職と同年代、熱い心を持った素敵な先生です。皆様のご参詣を、心よりお待ちしております。

■11月 帰敬式

3年に一度行なわれるのが、仏教徒入門の儀式・帰敬式です。今年の特別企画で、11月28日(土)に行われます。

帰敬式を受式すると仏教徒としてのお名前、法名・釋(尼)〇〇が授与されます。ご希望の一字をお入れすることもできます。この機会どうぞお見逃しなく。

たとえ一生を尽くしてでも
 遇わねばならない
 ひとりの人がいる
 それは・・・自分自身

■グリーンケアのつどい

大切な方を亡くした人々のつどいです。開設から12年がたち、50回を実施してきました。今までの参加者は延べ793名。仏さまの教えが悲しみを抱く人間を照らす、そんなあなたたかな居場所です。

■ぞんみようじこども食堂

開設から4年半となりました。スタッフ10名を含め、毎回80〜90名の方々が近隣から集まっています。特製キーマカレーとふれあいタイムを、皆さん満喫しておられます。

お寺のひろば 2020年(令和2年)

お寺のひろば 2020

3月7日(土) 14時 樹心の会 **中止**

3月13日(金) 13時 清掃の会 **中止**

3月20日(金) 11時のみ 春のお彼岸法要 **中止**

(←以降の行事はHPで「確認ください」)

3月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい

4月18日(土) 14時 樹心の会

(東京五組同朋大会に参加)

4月25日(土) 10時 おみがきのつどい

5月3日(日) 12時 永代経法要(荒山淳師)

5月16日(土) 14時 樹心の会

6月13日(土) 14時 樹心の会

6月27日(土) 14時 グリーフケアのつどい

7月4日(土) 11時 新盆法要

7月12日(日) 11時と13時 お盆法要

8月29日(土) 午後 青年のつどい

9月12日(土) 14時 樹心の会

9月18日(金) 10時 清掃の日

9月22日(火) 11時と13時 秋のお彼岸法要

9月26日(土) 14時 グリーフケアのつどい

10月10日(土) 14時 樹心の会

10月24日(土) 10時 おみがきのつどい

11月2日(月) 14時 報恩講のゆうべ

11月3日(火) 12時 報恩講法要(田中顕昭師)

11月14日(土) 14時 樹心の会

11月28日(土) 11時 存明寺帰敬式

12月12日(土) 14時 樹心の会

12月19日(土) 14時 グリーフケアのつどい

1月1日(元旦) 10時 修正会

新型コロナウイルスによる行事中止について

新型コロナウイルスの感染が広がる中、参加される方々の感染リスクを考慮し、存明寺の次の行事を中止いたします。

■3月7日(土) 樹心の会 **中止**

■3月13日(金) 清掃の会 **中止**

また春のお彼岸法要は、規模を縮小して

一座のみ、30分の法要といたします。

■3月20日(金) 11時のみ 春のお彼岸法要

それ以降のお寺の行事は、今後の状況を見ながら判断をします。存明寺HPのトップ画面に特設した「緊急のお知らせ」にて、今後の行事をお知らせします。



【あしがき】

▼私が住職になって、お寺の行事が中止になったのは過去2回しかない。2011年3月の樹心の会は、東日本震災で。2019年10月の樹心の会は台風19号(令和元年東日本台風)で。そして今回である。

▼今回は2月・3月の行事がたくさん中止となった。未体験の出来事である。人が生きるということにおいて、細菌や感染とどのように対峙していくのかということが、今現実から問われている。必要以上の恐怖心に囚われることなく、冷静に情勢や病いや人間を見つめ続けていける、心のこもった勇気がほしい、と痛切に思う。(住職)

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井 義一(釋諦信)

〒157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp